

## 指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成29年度)

施設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指 定 管 理 者 の 名 称	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施 設 所 管 部 課 ( 室 )	環境生活部 自然保護課

## 1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成 3年 7月 ~ 平成18年 3月	管理委託	(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成18年 4月 ~ 平成21年 3月	指定管理者	(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成21年 4月 ~ 平成26年 3月	指定管理者	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

## 2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指 定 期 間	平成26年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

## 3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所 在 地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設 置 年 月	平成 3年 1月	
根 拠 条 例 等	サンクチュアリセンター条例	
設 置 目 的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立するとともに、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造し、併せて県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくり等を推進するため設置されました。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	3,850㎡
	構 造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
	内 容	1階 829.87㎡ (事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム) 2階 563.62㎡ (会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室)
開 館 ( 所 ) 日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(日曜日, 土曜日, 1月2日を除く。)を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開 館 ( 所 ) 時 間	午前9時 ~ 午後4時30分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター ①建物等の管理 ②物品の使用及び管理 ③施設の共用等について ④入館の拒否等 ⑤損傷等の届け出 ⑥展示物等の管理、保全及び維持管理 ⑦事故防止と発生時の処理 ⑧再委託業務について ⑨施設の管理運営に関する環境配慮について ⑩事業報告 2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備 ②買上地(県有地)の維持管理及び整備 ③ハス田の維持管理 ④観察路の維持管理及び整備	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
開館(所)日数	300 日	304 日	306 日	102.0%	100.7%
延べ利用者数	30,000 人	42,273 人	37,994 人	126.6%	89.9%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
延べ利用者数	30,000 人	42,273 人	37,994 人	126.6%	89.9%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	30,000 人	42,273 人	37,994 人	126.6%	89.9%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
県指定管理料	28,724	28,724	28,724	100.0%	100.0%
利用料金収入	0				
その他	0				
収入計 (a)	28,724	28,724	28,724	100.0%	100.0%

(2) 支出

人件費	18,588	17,716	18,253	98.2%	103.0%
施設管理費	10,136	9,799	9,803	96.7%	100.0%
事業運営費	0	0	0		
その他	0	1,209	668		55.3%
支出計 (b)	28,724	28,724	28,724	100.0%	100.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0		
前期繰越収支差額					
次期繰越収支差額					

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成29年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。		運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があがるよう運営管理を行った。		A	施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。	A
人員体制	正規	4人	非正規	5人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	1 日常的に施設並びに設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。		法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。		A	法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	別記1のとおり		各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目を浴びている。		S	各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は全国からも高い評価を受けている。	S
④自主事業の実施	別記2のとおり		自主事業は、参加者から好評で、リピーターが多く参加している。		S	伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、27回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。	S
⑤利用者サービスの向上	厳しい予算の中、入館者のニーズに応えるべく、サンクチュアリセンターのパンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ました。また、情報の発信は、ホームページを常に更新し、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターを毎月発行し活用、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報をはじめ調査研究などを積極的に情報発信に努めた。 研修室や会議室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。		地元はもとより県内、県外からの多くの方々が来館する。少ない人数で沼の保全対策からサンクチュアリセンターの運営までを行う当財団の役割は大変高く評価されている。		A	インターネットのホームページを活用し、情報が提供されている。また、独自でセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど来客者のニーズに的確に対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置に工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うるおいのある空間づくりに努めた。		来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し館内展示を行っている。		A	来館者の意見を大切に、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。	A
⑦安全対策	毎年9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行い、来館者に対して速やかに対応できるよう訓練を行った。消防法で、定められている防火管理者等の有資格者を配置して、火災予防について万全な管理に努めた。		消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。		A	消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。	A
⑧県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。		事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透しつつある。		A	各種の自主事業は、広く周知しており、多くの参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。	29年度の情報公開の要請はなし。	A	実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり	4月から6月までは、昨年度と変わらない入館者であったが、7月・8月の長雨と天候不良が大きく影響し、8月に3,871人減となった。それが大きく影響し、全体では、4,279人減となり、昨年度入館者の89%となった。	A	入館者が昨年度と比較して4,279人減少しているが、栗原市にある施設として、開館日数306日、1日の平均入館者数が124人は、評価が高い。	A
⑪収支実績	上記「5. 施設利用実績」のとおり	経費削減を実施し、粗餐の範囲内での執行を行った。	A	限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。	A
⑫その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣や自然観察会などの実施に積極的に対応した。なお、新たに前出講座を開講した。	地域に密着した事業を展開するため、事業以外の取り組みも、重要視される。毎年開催している伊豆沼・内沼出前講座には、209名の参加があり、今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。	A	他団体とも連携した事業が積極的に進められている。	A
総合評価		調査・研究及び沼の保全の核となるサンクチュアリセンターの経費の削減等を行い、管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全対策は、多くの県民から高い評価を得ている。	A	県の環境保全の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	昨年度と比較した場合、入館者は減少したものの、来館者から高い評価をいただいている。今後は、施設老朽化箇所について、自然保護課と協議を行いながら、施設の整備を行っていく。	建物設備の老朽化が目立ってきているので、今後、急がれるものから順次、整備していく。